

Nara Women's University

No.13

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学21世紀COEプログラムNewsletter編集委員会 公開日: 2013-04-11 キーワード (Ja): 下三橋遺跡, 古事記, 古代都城と条坊制, 古代文化の服飾史, 日本書紀 キーワード (En): 作成者: 奈良女子大学21世紀COEプログラムNewsletter編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/3328

奈良と古代

古代日本形成の特質解明の研究教育拠点

共同シンポジウム 都城制研究集会 第2回

古代都城と条坊制 一下三橋遺跡をめぐって— 報告

◆都城制研究集会 第2回

古代都城と条坊制 一下三橋遺跡をめぐって—

2007年12月15日(土) 10:00~18:00

於：本学理学部G棟 1階 G101号教室

※科学研究費補助金 基盤研究(B)「東アジアにおける難波宮と古代難波の国際的性格に関する総合研究」(研究代表者：積山洋)・同「地理情報システムを用いた古代官都の環境復元と環境史の研究」(研究代表者：林部均)と共催

◇論点の提示 館野和己(奈良女子大学)

◇下三橋遺跡の調査成果とその意義

山川均(大和郡山市教育委員会)

佐藤亜聖(元興寺文化財研究所)

◇平城京左京「十条」条坊の位置づけをめぐって

—条里との関係および羅城門造営年代の再検討—

小澤毅(奈良文化財研究所)

◇平城京左京南辺特殊地区を考える

—下三橋遺跡の調査の成果を分析するにあたっての疑問点・留意点—

井上和人(奈良文化財研究所)

◇京の成立と条坊制 吉野秋二(奈良女子大学)

◇中国都城の方格状街割の沿革と日本都城

妹尾達彦(中央大学)

◇司会 館野和己・積山洋・林部均

都城制研究集会は、古代都城の検討を各地の都城遺跡の発掘調査を行っている機関や研究者とともに



討論の様子

推進すべく行っているもので、本COE拠点の他、都城遺跡発掘に携わる機関に基盤を置く2つの科学研究費補助金による研究グループと連携して開催しています。

第2回目となる本研究集会では、平城京左京の「十条」遺構が発見された、大和郡山市の下三橋遺跡について検討を加えました。

午前は館野和己氏による論点の提示に続いて、山川均氏・佐藤亜聖氏による下三橋遺跡の調査成果の報告がありました。両氏は平城京が南北十条で計画され、730年頃までに九条に改変され、十条廃絶後に田畑となり、その後大和統一条里が施工されたとの見解を示されました。午後には小澤毅氏と井上和人氏の報告があり、平城京造営以前に統一条里が施工され、平城京は当初から九条で設計されたとの見解が出されました。吉野秋二氏は文献史料から、721~737年には南北九条となっていたことなどを指摘しました。妹尾達彦氏は多くの都城の事例を検討しつつ、東アジアの方格状街割について、新たな征服者が新たな土地に都城を建築した結果であるとの報告などがありました。

最後に討論が行われ、報告者らによる活発な意見の交換がありました。関心も高く、約150名の参加者を得ました。



会場の様子

国際シンポジウム 古代文化の服飾史—朝鮮半島から奈良へ 報告

岩崎 雅美 (大学院人間文化研究科教授)

◆古代の服飾文化—朝鮮半島から奈良へ—

2007年11月17日(土) 10:00~16:30

於：本学A棟1階 生活環境学部会議室

※奈良女子大学古代服飾研究会主催

・第1部〈研究会〉(10:00~12:00)

◇小袖文様にみる奈良 岡松恵 (奈良女子大学)

◇摺りを用いた衣に関する一考察

植崎久美子 (広島女学院大学)

◇神像の服装 馬場まみ (華頂短期大学)

◇司会 片岸博子 (鹿児島県立短期大学)

・第2部〈シンポジウム〉(13:30~16:30)

◇布・紵・綿(真綿)を中心にした対日関係における渤海の衣料

姜淳弟 (韓国 カトリック大学校)

全炫室 (韓国 カトリック大学校)

◇通訳 黄貞允 (韓国 釜山大学校/韓国 伝統服飾研究所)

◇正倉院に伝わる作業着

田中陽子 (宮内庁正倉院事務所)

◇垂領・大袖の衣を着る人々

岩崎雅美 (奈良女子大学)

◇司会 相川佳予子 (奈良女子大学<元>)



国際シンポジウムの様子

左から岩崎氏、田中氏、姜淳弟氏、全炫室氏

第一部の研究会では本学の院生や卒業生による研究発表が行われました。第二部は国際シンポジウムで「布・紵・綿(真綿)を中心にした対日関係における渤海の衣料」の発表では、姜淳弟氏と全炫室氏が韓国から参加して下さいました。姜氏は以前に外国人研究員として約1年間本学で研究された方で、この国際シンポジウムが機会となって再度本学を訪問されました。正倉院事務所の田中陽子氏は、今年度の服飾の出陳品について詳しく紹介して下さいました。時間を延長して活発な議論が行われました。出席者約40名。

連続公開講座 & シンポジウム 古代観、何が変わったか 報告

◆連続公開講座

2007年10月22日(月)~26(金) 各日18:00~19:30

於：本学文学部北棟1階N101号教室

◇第1回：古代は遠い過去か、それともつい最近の過去か

小路田泰直 (奈良女子大学)

◇第2回：聖武天皇の仏教理解は浅薄にあらず

西谷地晴美 (奈良女子大学)

◇第3回：聖徳太子不在論のナンセンス

宮地明子 (奈良女子大学)

◇第4回：日本書紀を使って歴史を描くことは自殺行為か

若井敏明 (関西大学)

◇第5回：平城京の復元は思想の表現たるべし

内田和伸 (奈良文化財研究所)

◆シンポジウム 自給自足的古代イメージの解体

2007年12月2日(日) 13:00~17:00

於：本学F棟5階 会議室

◇古代観の転換に向けての一考察

広瀬和雄 (国立歴史民俗博物館/COE特任教授)

◇「自給」しない弥生社会

大久保徹也 (徳島文理大学)

◇網野善彦的古代像再見 小路田泰直 (奈良女子大学)

◇司会 小路田泰直 (奈良女子大学)



シンポジウムの様子

今回の連続公開講座とシンポジウムは、これまでの本学COEの研究活動成果を、市民の方々に報告するという目的で開催されました。1週間連続で開催された公開講座には、連日40名前後の出席がありました。また、後日行われたシンポジウムでは、弥生時代が高度な分業社会であったことが報告され、これまでの自給自足的なイメージで捉えられてきた弥生社会像の見直しを図るべきではないかという提案がなされ、活発な議論が行われました。

研究会 古事記・日本書紀はいかに読むべきか 報告

◆研究会 古事記・日本書紀はいかに読むべきか

2007年12月22日(土) 13:00～17:00

於：本学文学部北棟1階N101号教室

◇『古事記』の読み方―神野志隆光氏の所論によせて―

西谷地晴美 (奈良女子大学)

◇神武天皇不在論は科学的か

若井敏明 (関西大学)

◇津田史学論からのコメント

小路田泰直 (奈良女子大学)

本研究会では、古事記・日本書紀の記述を、史料としてどのように扱うことが可能なのかということについて討論が行われました。

西谷地氏は、日本書紀・古事記の記述を「潤色」と「史実」とに分けることの不合理性を指摘され、歴史学の手法のあり方を問われました。若井氏は、神武東征について、その異伝の多さこそ、むしろ真

実性を証明するものではないかと述べられました。これらの発表に対し、フロアからは多くの質問や意見が発せられ、活発な意見交換がなされました。



左から西谷地氏・若井氏・小路田氏

研究活動報告

◆連続市民講座「古代都市とその周辺」

於：本学コラボレーションセンター3階大講義室

※放送大学奈良学習センター共催

◇第5回 2007年10月18日(木) 18:00～19:30

「本居宣長と『古事記伝』の世界」

渡辺清恵 (奈良女子大学)

◇第6回 2007年11月15日(木) 18:00～19:30

「敦煌とトルファン―辺境の二つの都市―」

松尾良樹 (奈良女子大学)

◇第7回 2007年12月20日(木) 18:00～19:30

「都城の成立と木簡」 館野和己 (奈良女子大学)

◆シンポジウム

・正倉院文書の国際的・学際的利用

2007年11月10日(土)

於：大阪市立大学文化交流センター

※正倉院文書研究会主催、本COE共催

・古代の服飾文化―朝鮮半島から奈良へ―

※詳細は本誌2頁

・自給自足的古代イメージの解体

※詳細は本誌2頁

・古代都城と条坊制―下三橋遺跡をめぐって―

※詳細は本誌1頁

・人文科学とデータベース

2007年12月22日(土) 10:00～18:20

於：本学コラボレーションセンター

※第13回公開シンポジウム実行委員会主催、本COE共催

※人文系データベース協議会後援

※情報処理学会関西支部協賛

◆特別講演

・キトラ・高松塚古墳のフォトマップ撮影と画像の保存活用―埋蔵文化財写真でのデジタル画像とデータベース―

中村一郎 (奈良文化財研究所)

2007年12月22日(土) 13:00～14:15

於：本学文学部南棟218教室

※第13回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」実行委員会主催、本COE共催

◆研究会

・奈良盆地の開発史 [第8回]

◇文献からみた律令期以前の地域開発

館野和己 (奈良女子大学)

◇司会

宮路淳子 (奈良女子大学)

2007年10月20日(土) 10:00～12:00

於：本学文学部南棟2階S225号教室

・奈良盆地の開発史 [第9回]

◇GISによる古墳時代集落の解析

六車美保 (奈良女子大学)

◇司会

宮路淳子 (奈良女子大学)

2007年11月17日(土) 10:00～12:00

於：本学文学部南棟2階S225号教室

・古事記・日本書紀はいかに読むべきか

※詳細は本誌3頁

◆連続講座

・古代観、何が変わったか

※詳細は本誌2頁

◆国際講演会

◇砂漠考古と居延漢簡

魏堅 (中国人民大学)

◇通訳

徐光輝 (龍谷大学)

◇司会

相馬秀廣 (奈良女子大学)

於：本学F棟5階 大学院会議室

※科学研究費補助金 基盤研究(A)「高解像度衛星データによる
古灌漑水路・耕地跡の復元とその系譜の類型化」主催

◆COEサロン

於：本学本部棟3階第2会議室

◇古代都市と仏教

宮地明子 (奈良女子大学)

2007年10月10日(水) 16:30~18:00

◇密教的空間の形成について

斉藤恵美 (奈良女子大学)

2007年11月7日(水) 16:30~18:00

◇都市と条坊—京職の運営形態と京戸管理について

京戸香美 (奈良女子大学)

2007年12月21日(水) 15:30~17:00

お知らせ

◆研究会「古墳時代像再構築のために」

2008年1月26日(土) 14:00~17:00 於：奈良女子大学文学部北棟1階 N101号室

報告者：広瀬和雄氏 (国立歴史民俗博物館/奈良女子大学COE特任教授)

趣旨：『記紀』が対象とした「大化前代」、前方後円(方)墳が5200基つくられつづけた古墳時代、それを体系的に把握するためには考古学と文献史学はどのように向き合っていけばいいのか。新しい古墳時代像創出のために考古学の立場から問題提起をし、文献史学との議論を深めていこう(広瀬)。

*参加申込不要、無料です。

◆国際シンポジウム「古代東アジアにおける“都市”の成立」

2008年2月16日(土)・17日(日) 於：奈良女子大学文学部南棟2階 S218号室

第1日目 2月16日(土) 13:00~17:15

- ・東アジアにおける初期都市論の現状と課題
- ・伽耶地域における都市の成立と展開
- ・百済における都市の成立・風納土城の調査から
- ・ベトナムにおける古代都市の発展

宮路淳子 (奈良女子大学)

朴天秀 (韓国・慶北大学校)

申鐘國 (韓国国立文化財研究所)

TONG Trung Tin (ベトナム社会科学院考古研究所)

第2日目 2月17日(日) 9:00~15:00

- ・中国における初現期の都市—都市形成の4段階
- ・日本における都市の初現—纏向遺跡の調査から
- ・弥生時代における<都市>成立の可能性—北部九州、特に比恵・那珂遺跡群を例として—

岡村秀典 (京都大学人文科学研究所)

橋本輝彦 (桜井市埋蔵文化財センター)

久住猛雄 (福岡市教育委員会)

・総合討論 コーディネーター：寺澤薫 (奈良県立橿原考古学研究所)

*参加申込不要、無料です。

◆COEの行事予定に関する最新の情報は下記ホームページをご参照ください。

『奈良と古代』第13号 2007.12.31

発行：奈良女子大学21世紀COEプログラムNewsLetter編集委員会

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学COE研究室・古代学学術研究センター

TEL&FAX:0742-20-3779

ホームページ：<http://koto.nara-wu.ac.jp/coe/> E-mail：coe-kodai@cc.nara-wu.ac.jp